

授業科目	授業番号： 104			担当者	小亀 拓也
	日本語史			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴について、資料を根拠に分析・整理し、現代日本語の成立に至る過程を説明できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎授業終了時にウェブフォームで質問を募り、次回授業時に解説を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 沖森卓也『日本語全史』（ちくま新書）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 時代区分と資料：日本語の範囲，日本語の資料，日本語史の時代区分</p> <p>第 2回 奈良時代までの日本語 1：漢字の伝来，万葉仮名，上代特殊仮名遣い，頭音法則</p> <p>第 3回 奈良時代までの日本語 2：動詞の活用成立，形容詞・代名詞の整備，和語と漢語</p> <p>第 4回 平安時代の日本語 1：和文と漢文訓読文，平仮名・片仮名の誕生</p> <p>第 5回 平安時代の日本語 2：音韻の混同（ハ行転呼音），声調の表示，下一段活用の成立，ナリ活用とタリ活用</p> <p>第 6回 平安時代の日本語 3：音便と表記，代名詞，助動詞と助詞，漢語の日本語化</p> <p>第 7回 鎌倉時代の日本語 1：和漢混淆文，直音と拗音，開合，連声</p> <p>第 8回 鎌倉時代の日本語 2：終止形と連体形の合一化，ラ変と形容詞の活用変化，係り結びの崩壊</p> <p>第 9回 鎌倉時代の日本語 3：二段活用の一段化，コソアド体系の整備，助動詞類の変化，漢語の普及と意味変化</p> <p>第 10回 室町時代の日本語 1：天草本『伊曾保物語』，アクセントの変化，外来語の発達</p> <p>第 11回 室町時代の日本語 2：近代語法への変容，尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第 12回 江戸時代の日本語 1：上方語と江戸語，四つ仮名の区別の消滅，合拗音の直音化，漢語の多用，当て字</p> <p>第 13回 江戸時代の日本語 2：近代語法の確立，複合辞の増加，敬語表現の細分化</p> <p>第 14回 明治以降の日本語：言文一致，現代表記の確立，漢語の急増，外来語の使用</p> <p>第 15回 日本語学史</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通してこること。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。				
成績評価の方法	筆記試験（持ち込み可）の成績（60%），小テストの成績（40%）				
実務経験について	なし				